

平成29年度「学力・学習状況」検証事業研究状況報告書（概要）

- 1 学校紹介 学級数 16学級（特別支援学級2学級を含む）  
 全校児童数 402名 教職員数 24名
- 2 研究主題 基礎的・基本的な知識や技能を身につけ、活用できる児童の育成  
 ～学力向上を目指して～



3 研究の概要

(1) 学力向上のための取組について

- ① 児童の学力傾向を分析，把握し，指導の共通化を図る。研究授業を行い授業改善に努める。
- ・年度初めの校内研修において，全職員で児童の実態と学力の課題について共通理解を図り，学級，学年の傾向を分析，把握した。
  - ・学習に関して，「本時のめあてを明確にする」「授業の終わりに振り返りをする」「自分で考えさせ，書く時間を確保する」など指導の共通化を図った。「東の子学習の約束」を活用して，学習に関するきまりについて確認した。また，全職員で「授業力改善のための『セルフチェックシート』」を活用して，日々の授業改善を図っている。
- ② 基礎学力の充実を図るために，毎朝15分のチャレンジタイムを設定した。
- ・毎朝15分間の朝自習で，基礎基本の反復学習や読書，作文を計画的に行っている。

月	火	水	木	金
読書	読書 (読み聞かせ)	100マス作文	漢字や計算練習 (基礎基本)	漢字や計算練習 (基礎基本)

- ・100マス作文では，3分間で，低学年は80字，中学年は90字，高学年は100字を書くことを目標に行っている。さらに，1分間で書いた内容を五七五にまとめる。
  - ・漢字や計算練習では，県教育委員会作成の「ちばっ子チャレンジ100」や市原市教育委員会作成の「スキルアップドリル（算数）」，「言語ワーク（言語能力向上ワークシート）」を活用している。 【ちばっ子「学力向上」総合プランACT. 2ちばっ子チャレンジ100の活用】
- ③「家庭学習の手引き」を作成，配付し，児童，保護者に周知した。また，手本となる自主学習ノートを随時紹介し，児童の家庭学習への意欲向上を図っている。

(2) 加配教員（学習サポーター含む）の活用について

- ① 学力差に対応するために，指導形態の工夫をした。（算数でT.Tまたは少人数指導を実施）
- ・算数では，T.Tまたは少人数指導を実施し，個に応じたきめ細かい学習指導を行っている。担任と相談・協力しながら，教材研究や学習の準備を行っている。【加配教員の活用】
  - ・千葉県学習サポーターと協力して，低・中学年の国語や算数での学習支援を行い，児童が学習に集中して取り組むことで，低・中学年のうちに学力差が大きくなるようにしている。
- 【ちばっ子「学力向上」総合プランAct. 2千葉県学習サポーター派遣事業の充実】

② 放課後学習教室「辰東小チャレンジクラブ」の実施

ねらい：学習に自主的，計画的に取り組む児童を育成するため。

内容：PCの活用による自主学習（基礎から応用まで，自分の興味や能力に応じて学習）

- ・千葉県学習サポーター1名といちはら学習サポーター1名と連携して，月・火・金曜日に，3年生以上の希望者を対象に，放課後学習教室（辰東小チャレンジクラブ）を行っている。
- ・児童の学習への自主性・計画性の向上をねらいとして，基本問題から応用問題



まで自分で計画を立て、パソコンによるドリル学習（Eライブラリアドバンス）を中心に取り組んでいる。

- ・学習サポーターが、パソコンの使い方や学習について支援を行っている。児童は、必要に応じてノートを用いて計算したり、記録したりして取り組んでいる。

【ちばっ子「学力向上」総合プラン Act. 2 千葉県学習サポーター派遣事業の充実】

#### 4 成果について

- ・教師がセルフチェックシートを活用して、日々の授業を振り返ったり、「授業の終わりに振り返りする」ことを意識して授業を行ったりすることで、授業の改善を図ることができた。
- ・100マス作文に継続的に取り組むことによって、3分間で書ける文章の量が増え、詳しい内容を書くことができるようになってきている。また、書いた内容を1分間で五七五にまとめることができるようになってきている。反省カードや日記など、文章を書く場面での抵抗がなくなっている。
- ・学習サポーターと協力して、放課後学習教室の児童を指導することで児童の学習意欲が高まってきた。